

所外研修⑨ 島尻地区学力推進実践発表会に参加

11月17日(火)に「確かな学力」の向上に向けた実践事例の発表や全国学力・学習状況調査の結果についての講話等を通して、今後の研究取組みの充実を図ることを目的に、所外研修として、「島尻地区学力向上推進実践事例発表会」に参加しました。

毎週水曜日をノー部活デーと設定し、全学年で補習指導と授業リフレクションを取り入れた教科会の充実を図る大里中学校の実践、放課後の時間を活用して全職員体制で日常的な補習指導に取り組む三和中学校の実践は、全校体制で具体的に学力向上に取り組んでいました。

さらに、親泊指導主事による、「全国学力・学習状況調査の結果等を踏まえた学習指導の改善・充実について」の講話がありました。

まとめとして、城田由勝指導班長は「今までと同じやり方だと、同じ結果しかできません。本日の実践発表を参考に『学力向上に向けた学校改革』の具体的取組を全校体制でお願いします。」と結びました。

5名の教育研究員は、真剣なまなざしで、これからの学力推進の在り方を考えていました。

【発表会の概要】

- 1 はじめのことば
- 2 所長あいさつ 島尻教育事務所 所長 宮城末義
- 3 事例発表
「『確かな学力』の向上に向けた全校体制での取組」
(1) 南城市立大里中学校 教諭 平田美和子
(2) 糸満市立三和中学校 教諭 前底泰仁
- 4 講話
「全国学力・学習状況調査の結果等を踏まえた学習指導の改善・充実について」
島尻教育事務所 指導主事 親泊正幸
- 5 まとめ
島尻教育事務所 指導班長 城田由勝
- 6 おわりのことば

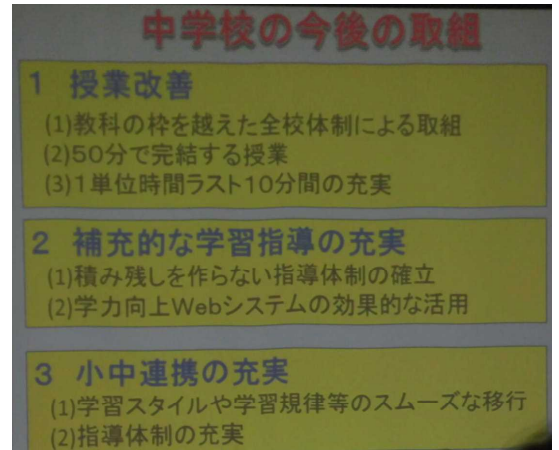


写真1 プレゼンテーション資料1

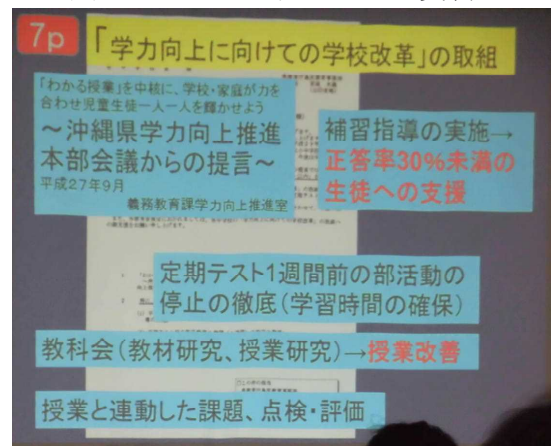


写真2 プレゼンテーション資料2

教育研究員の感想 (研修日誌から)

中学校の学力向上実践事例会に初めて参加しました。

「確かな学力」ということで、数字で評価がでる重みは大きいと思いました。今回実践発表してくださった大里中と三和中においては、共通した実践がされていました。1つは、全校体制での取組みです。教科会の充実が教師同士の授業改善に繋がっているのがわかります。そして、全職員で子ども達一人一人をサポートしていく感じが感じられました。教科会は幼稚園でいう園内研修の充実につながり、計画→実際→子どもの姿→改善のサイクルや、一人一人に応じたきめ細やかな援助が共通な部分だと思いました。

自分達の所とは状況が違うので・・・と諦めるのではなくて“自分のところでは、どう活用できるか”できることを考え、対策していくことが大切であると、思います。自身の研究姿勢にも活かしたいです。

(上原亜矢)

宮城末義所長の挨拶の中に「学力向上は、教師の意識改革と情熱にかかっている。できることから、即実行してほしい。」という言葉がありました。所長の切実な想いが伝わってきて、教師としてもっとがんばらないといけないと感じました。私は、長嶺小学校で、これまで、職員全員で学力向上に向けて、教材研究はもちろんのこと、毎日の授業の板書計画も児童のノートと連動させたものを作り、授業改善に取り組んできました。また、毎日補習も行いました。とても、きつかったのですが、児童の学力がどんどん上がるという結果を見たとき、やって良かったなと思いました。今回、小学校の実践と学力テストの結果から、中学校も改革が求められていることがわかりました。大里中学校は週時程の見直しをし、水曜日はすべての部活動を停止し、補習を行っているとのこと。また、授業リフレクションを行い、授業の質の向上を図っているということでした。第一歩を踏み出すことは大変だったと思いますが、全校体制で取り組んでいるので、今後、成果が出ると思います。三和中学校の実践は、朝の時間、休み時間、放課後の時間を活用して、補習を行っているとのことでした。多くの中学校では、やはり、時間確保の課題があると思いました。事務所の先生方もお話していたように、中学校の意識改革が今、必要とされており、授業改善、補充的な学習指導の充実、小中連携の充実が求められていることがわかりました。「キーワードは、全校体制で取り組むこと」「今までと同じやり方だと、同じ結果しか出せない。」との城田先生の言葉が心に残りました。
(比嘉頼子)

昨年、今年と小学校の全国学テの結果が改善されたことで県民に「やればできる」という気持ちが生まれたことだと思います。しかし、中学校においてはまだまだ結果が伴わないのでどんな取り組みをしているのだろうと聞きました。やっていることは多少違ってはいましたが、例えば週時程を組み替えて、補習を大切にしているということ、また家庭学習の工夫した出し方学習規律の徹底などやっていることについては共通する部分も多く見られました。今回初めて知った授業リフレクションの取り組みは小学校でも同じことができると思いました。自分の授業でなかなかうまくいかないことはよくあります。先輩方に質問もするのですが、その時間が現場ではとれないことも多いので、時間をちゃんと設定してくれるとやり易いと思いました。

最後の城田班長の「全教師が一体となって取り組む」や「正答率30%未満の子への支援」など小学校においても中学校を意識しながら日々の授業実践に取り組んでいくことが大切だと感じました。
(久高友弥)

今年度、小学校が全国水準に到達したことを受け、今後は中学校における学力向上推進の取り組みの充実にも力を入れて頑張ろう！という意気込みが伝わってきました。事例発表を行った大里中学校での具体的な取組として、週時程表の見直し、定期テスト一週間前の部活動停止の徹底で学習時間の確保を行い、全校体制で国語・数学・理科の3教科を40分間、補習指導を行うことや授業と連動した家庭学習、学力向上推進のための教科会の充実など全校体制で学力向上に取り組んでいるということでした。また、三和中学校では、朝・休憩時間・放課後に実施する補習指導を教師も生徒も部活動よりも優先して行っており、補習時間は「5分~できるまでずっと」を合い言葉に頑張っているということでした。

親泊正幸指導主事のご講話では、これからの課題は正答率30%未満の子ども達への支援と教科担任だけでなく、全校体制で取組むことが大切であることをお話しして下さいました。私の校務分掌が学推ということもあり、学力は子ども達の「分かるようになりたい」「できるようになりたい」という学習意欲と職員が一丸となって全校体制で補習指導にあたるのが重要であると考えています。

最後に、資料にある大城朗義務教育課長の「生徒の心に火をつけるのは教師の仕事」というお言葉に、感銘を受けました。日々、授業改善に取り組み、教師として子ども達に「確かな学力」を身に付けさせることができるように尽力します。
(富名腰由紀)

小学校の全国学力調査の20位へ上昇を受けて、次回の中学校での全国学力調査への期待が大きいことを実感しました。会場の前面に学力向上に係わる総括目標（平成29年度検証）児童生徒の学力を平成28年度までに全国水準に高めるというスローガンがありさらに具体的な数値目標として中学校全学校全教科平均差5ポイント以内とありました。理科の今回の全国との差は-6.8ポイントだったのであともう一踏ん張りだと感じました。全国学力調査の趣旨として義務教育の機会均等とその水準の維持推進向上の為とありました。大学入試の改革も含めこれから求められる21世紀型の学力には、活用や実践が取り上げられていますが、基礎基本をしっかりつけてあげることで活用や実践につながると改めて考えました。

大里中学校の実践事例が全国学力調査にどんな結果を残せるか楽しみです。また、三和中学校の日常の取り組みで生徒一人一人に丁寧に対応していくことが全教科で徹底されていることはすばらしいと思いました。
(波照間生子)